

本当に必要な手術かどうかを適切に判断し、可能な場合は、手術の延期・回避に努める

社会医療法人財団池友会 福岡和白病院

リウマチ関節症センター長

林和生



適切な保存療法で手術の延期・回避を

福岡和白病院のリウマチ・関節症センター長・林和生医師は、「変形性股関節・膝関節症は、直接生命に影響しない疾患なので手術は仕事、子育て、親の介護に支障のない時期に延期したいという患者さんが多く来院されます。『手術を延期した上でより良い結果を得たい、できれば手術を回避したい』という要望がほとんどです」と話す。

患者の希望に沿った医療

を提供するため、林医師は保存療法※を重視し、1077例もの症例を分析し、変形性股関節症に対する有効性についてデータに基づく研究を進めている。保存療法でも改善しない難治例は、術前・術後に、腰椎・骨盤・股関節・膝・足関節（アキレス腱短縮）のアラインメ

ント不良・可動域制限の調整を行なうことで、術後の早期の社会復帰や、早期の杖なし歩行など、より良い日常生活動作の獲得の実現に努めている。

手術を選択する場合もプログラムを継続する

ただし、早期に手術を行

- 1 63歳、女性、左股関節痛の症例。どこの整形外科でも手術と言われ杖歩行で当科初診し「ゆうきプログラム」でJOAスコアが38点から82点に改善し杖なし歩行が可能になり手術回避できた。
- 2 80歳、女性、右膝痛の症例。10分も歩けず他病院で人工膝関節置換術を勧められ当科受診し「ゆうきプログラム」でJOAスコアが65点から80点に改善し手術回避できた。
※JOAスコア：日本整形外科学会機能判定基準（正常：100点）



ゆうきプログラムに含まれる「8の字ゆらし」。変形性股関節症に対する当院での歩行バランス法の試み（第120回西日本整形災害外科学会）より抜粋

った方が良い場合もある。林医師はこう説明する。「変形性股関節症・変形性膝関節症が進行していくと腰椎に影響を及ぼし、腰痛が出現・増悪していくことがあります。腰痛が強くなってしまうと、たとえ手術で股関節や膝の痛みが軽くなっても残った腰痛のために歩行障害が改善されないケースもあるのです。この場合は3カ月間の術前リハビリの後、早急に手術をすることを勧めています」

腰痛が悪化する前に手術を行うことで、股関節痛や膝痛が軽快すると同時に腰痛も軽快することが多いという。この他、片側の股関節の開脚角度が25度を下回る場合は保存療法による改善が難しく、早期の手術が望ましい。同院では、適切な診断によって手術適応を判断し、手術延期を期待できるケースに関してはその

まま保存療法を継続する。そして、手術を行う場合でも、術前リハビリによってより良い予後を追求する。また、リハビリに関しては、病院での指導を受けた後、「股関節痛・膝関節痛を自分で治す」ことを目標に、自宅でのホームエクササイズを継続することができる。「手術をするか、そうでなければ悪くなるまで放置する、といった現状に悩んでいる方も多いことでしょう。適切なリハビリによって改善を期待できるケースも少なくないことを知っていただきたいと思います」と林医師は話す。取材／斉藤雅幸

診療科目：整形外科
(股関節・膝関節・関節リウマチ)
診療時間：
初診 月・水 14:00～17:00
※電話予約が必要です
再診 木・金・土 9:00～12:00
休診日：日・祝
〒811-0213
福岡市東区和白丘2-2-75
TEL.092-608-0001
http://www.f-wajirohp.jp/

※NPO法人ゆうき膝・股関節研究所・大谷内輝夫所長が開発した「ゆうきプログラム」を採用